 <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">みずみどり</p>	<p style="text-align: center;">1998年9月15日 第8号</p> <p style="text-align: center;">発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598 板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589</p>
---	--

紹介します赤塚の自然

..... 教えてくださいあなたの好きなところ

## 赤塚公園 みんなで自然発見ウォーク

いたばし水と緑の会では、赤塚公園の自然をみんなで知り、大事にしていくために、ウォークラリーをやります。

チェックポイントで、木の実や葉っぱ、渡り鳥などの秋の宝物を探し、クイズや木の実で遊びます。

自然発見ウォークに参加して、みんなのお気に入りのスポット、発見したこと、昔からの赤塚の風景や生き物を教えてください。



日 時：平成10年11月8日(日)  
午前10時から午後3時  
(いつでもスタート可)

スタート：板橋美術館前

コース：(親子) 城址公園周辺  
(大人) 城址公園→大門→四葉

その他：雨天中止(小雨の場合は実施します)

お願い：・ウォークラリーで紹介したい秋の情報があったらお寄せください。  
・このあと、みんなの情報を多くの方々にご紹介するため、自然マップのようなものをつくりたいと考えています。当日の応援、マップづくりに興味がある方はお手伝いください。

連絡先：小松(3937-8490)、坂本(環境保全課 3579-2598)

いたばし水と緑の会、赤塚公園管理所共催

## 赤塚溜池公園 自然地回復検討会の中間報告

山下 一郎

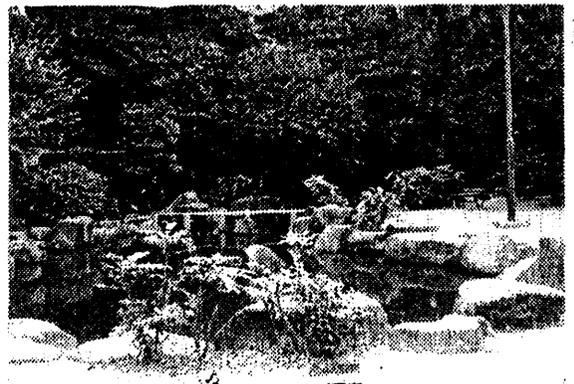
最初から堅苦しい名称が出てきました。目的は、美術館の裏を流れて、溜め池に流れ込んでいる小川の水を、ジャブジャブ池に引き込んで自然の水辺を作ろうというものです。同時にジャブジャブ池を改修して自然の回復を図るものです。

とは言っても、どのような改修になるのが本当のところわかりません。この検討会の中で話し合ってその結果を反映して設計することになるからです。結論を先取りしてしまうようですが、とりあえずこのようにしておきます。

区的环境保全課の主催です。参加者は「水と緑の会」「区の花ニリンソウを保存する会」「いたばし自然観察会」など、地元で自然保護活動を行っている団体、地元町会、溜め池公園の監視員などです。現在、3回目の会合が終わったところですが、途中の経過を報告しておきます。と言っても公式の議事録ではなく勝手な感想を書くことにします。

ところで司会は、ポリテックの井手さん。井手さんとは2度目です。いたばし自然観察会で一度ご招待して話を聞いたことがありました。そのとき以来です。化粧化のない顔がとても清々しい。

第1回目、出席者全員から自己紹介。その中で興味深かったのは、地元の開発前の高島平を知っている人たちの話しでした。乗蓮寺と不動の滝の間は谷地で、小川が流れていた。不動の



自然回復しようとしているコンクリート池

滝は水量が多く、雨が降っても日照りでも水量はほとんど変わらなかった。富士の水が流れてきているから酒れることはないと言いつた。昭和28年頃は、松月院でフクロウが鳴いていた。美術館とその隣の池田園の辺りは一面の草原で、通学路になっていたが、暗くなるとここを通るのが恐くて、わざわざ遠回りして帰った。

人の活動で自然の姿は大きく変わってきました。赤塚城が築かれた頃は、もっと違った姿だったかもしれません。また、わずか40年前には、手つかずの無垢の自然がありました。赤塚田んぼができる前の徳丸ヶ原というのも想像ができます。大砲の弾を撃ち込んで、誰も文句のいいようのない場所だった。

ところで、奇妙に思ったのは、全員が総論賛成ということです。20年前、自然を回復しよ

うと言っても、気が触れたと思われるか、せいぜい変人扱いされるだけでした。だから、自然を回復しようと言うのに対して激論が戦われることを期待？していたところもありました。行政がやるからなのか、それとも情勢が変わったのか、逆に考えると、おそろしい感じを持ちました。

打ち合わせ後、グループに分かれて現地調査。乗蓮寺の丘からしみだす毎分30ℓの水を初めて見ました。バケツ2杯分。かなりの水量です。20cmの導水管を通して水路に引いています。この水を使わない手はない。「大変なことをやったんだね」と香取さんの感想。ところで、この水路の終点である溜池では、毎分1ℓ程度の流れです。大部分が250mの水路を流れる間にしみ込んでしまうことになります。眞崎さんの話では、「導水管は湧水の水量が増えても十分に流せるだけの太さである」、とのこと。

第2回はそれから1週間後。3グループに分かれての作業です。赤塚チームは、赤塚の昔の様子、その当時の動植物などについて話し合います。生物チームは、水辺の動植物についてリストを作ります。管理チームは、管理の方法について考えます。それぞれのグループが持ちよって議論します。

管理チームからは、水路は生物のゆりかごとして基本的に人の立ち入りを制限する、コンクリート池は自然が定着するまで人の立ち入りを制限する、生物チームからは水路は生物の再生産の場所として位置づけ立ち入りを制限する、と発案されています。観察会はどうするかについては、リーダーがいる観察会については水路に立ち入りできる。利用方法としては、このよ

うな方向でまとまりそうです。

第3回目は生物チームの作ったリストから食べるもの、食べられるものの関係、食物連鎖の関係を作ります。

3回目ようやく全体の流れが見えてきました。それまでは、個々の議論がどのように結びつくか全体の流れを構成できずにいました。

2回目で歴史的にどのような場所だったかをまとめました。また、水辺にある動植物をあげておきました。いわば、歴史を縦軸、生物の状況を横軸として、座標をつくります。この中で生息可能な生物を考え、そのための餌となる生物が生育できるような環境を作り上げていくという手法です。

「水と緑の会」の矢田さんが中心になって水を通したことも、みんなの関心を高めるきっかけになっていると思います。

課題もあります。水を増やす方策、出来上がった後の管理、リーダーの養成などです。今後議論されることと思います。いずれにしろ「水と緑の会」と区内の自然保護団体がベースをつくることになります。



検討会風景

# 市民参加による笹目橋緑地の自然回復案について 観察会や実験池から生まれた修正案

いたばし荒川自然回復団

## 1. 自然回復案提出後の自然回復地の検討とその成果

昨年暮れ、市民参加による笹目橋緑地の自然回復案を作成しました。その後、案がよかったかどうか、改良すべき点がないかなどの視点から、満潮時観察会、実験池づくり、秋が瀬公園見学会、自然回復事業見学会などを経て、荒川河川敷キャンプでの笹目橋緑地での自然回復の話合いを行いました。

### ●1月の満潮時観察会

満潮時、本流の水は水路の屈曲部、河口から約120m地点までは上がってくる。

### ●4月、5月の2か所の実験池づくりとその経過調査

→昨年の9月に掘った池を1号池、4月に掘った池を2号池、5月に掘った池を3号池とする

#### ○1号池

(直径1.6 ~ 2.0m 深さ 90 cm内外、深い部分は直径1m内外で直掘り、素掘り、表土は周辺へ)

- ・11月 雨がしばらく降らない時期は干上がっている。土は湿っている
- ・5月24日 2号池では確認できなかったが1号池にはヤゴを多数確認(ウスバキトンボ…自宅の池で羽化させて確認)。アオコが発生している

- ・7月21日 雨やや少なく、暑い日が数日続く。水深は約20cm。ザリガニ1、ザリガニの穴3、ザリガニ死体1、幼虫死体(ゲンゴロウか?)多数

- ・8月1日 雨が続いた後、上部まで水がある。水深60cm。アメンボ、サカマキガイ(ヨーロッパ原産)を確認。鳥の羽が浮いている…水浴びをしたのか

植生は池周辺にヨモギ類、マツヨイグサ、カヤツリグサ、ヘビイチゴ、スズメノヒエ、オアレチノギクなど、やや帰化植物が多い

#### ○2号池

(直径2.0 ~ 4.0m 深さ50cm内外、緩傾斜、70cm以上掘った後ベントナイトを混入し、その後、掘った表土を10cm程度もどす。傾斜面や法肩にももどす。また、隣接する水路に堰



1号池

を設け、池をつなぐ水路をつくる)

- ・5月24日 早々とザリガニは多数見られるが、ヤゴは確認できない
- ・7月21日 3号池は干上がっているが、2号池は水がある。水深10cm程度
- ・8月1日 水深20cm。ザリガニのこども2~3cm多数、ハイイロゲンゴロウ1、サカマキガイ多数、マメゲンゴロウ、アメンボなど  
植生は池周辺にセリ、カヤツリグサ、グンバイナズナ、スズメノヒエ、タイヌビエなどイネ科植物が多い。5月31日に植えたクヌギの苗は草に埋もれ確認できない
- ・8月27日 しばらく雨が少なかったため、水路や3号池は干上がっていたが、ここだけ5~10cm程度の水がある。ザリガニのこどもも確認。

### ○3号池

(直径2.2~3.5m 深さ80cm内外、緩傾斜、素掘り、傾斜面や法肩に表土をもどす。  
周辺の雨水が入り込むように、法肩を数箇所、元の地盤面にもどす)

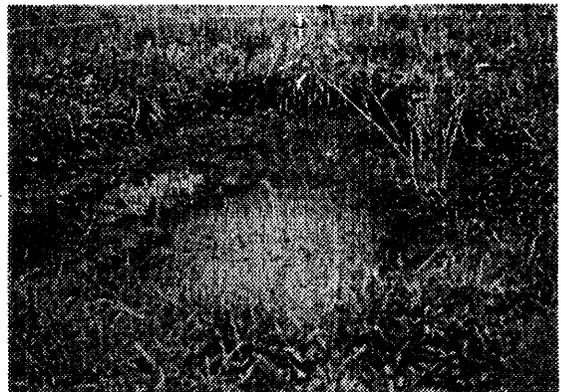
- ・7月21日 水はないが、グチャグチャしている
- ・8月1日 水深40cm。ハイイロゲンゴロウ多数、ゲンゴロウの幼虫多数、マメゲンゴロウ、アカムシ(ユスリカ幼虫)、夜になってダルマガエルが鳴く(体長8cm程度)  
植生は池周辺にカントウヨメナが群生している(元々あったヨメナが回復し、優占した)その他にカヤツリグサ、オオバコ、スズメノヒエ、ミコシガヤ、セリ、タデスベリヒユ、クソニンジン、トキワハゼ、シロザなど。5月31日に植えたクヌギの苗は3本育っている
- ・8月27日 水路とともに干上がっていた。無数の小さな穴がある。ゲンゴロウの幼虫の穴か。ヤゴのぬけがらがいくつもある。

### ●5月の秋が瀬公園見学会、7月の自然回復事業見学会

- ・同じ秋が瀬の池でも、深さや植生などの変化で池ごとに生き物のすんでいる種類がちがうようであった。
- ・中土手の市民の池と葛飾区の自然公園準備の



2号池



3号池

池は隣接しているが、造り方によって水の状態、植生の違い、生き物の生息の違いが見られる。どちらがいいのかは、これからの変化や管理の仕方、魚などを放流されることによって、また変わってくるものであろう。タイプのちがう池が隣接していることは生き物にとっていいことではないだろうか。

- ・東四つ木の自然回復地では、素掘りで真っ直ぐに掘った溝が風景としてどうかという問題はあるにしろ、思いの他良い湿地になっていた。

- ・千住新橋緑地では、高水敷の浅い池が2つあったが、片方は全く水がなく、草地となっていた。もう一方は水があり、小さな魚や水生昆虫が見られた。

本流の水が潮の高い時に入ってくる、または捨て石の間隙から入ってくる部分があったが、小魚やクロベンケイガニが多く見られ、人も親しみやすい場所となっていた。しかし、岩場は荒川の風景としてふさわしいものではない。

●以上様々な調査、検討、見学などの結果から、わかったことをまとめると以下ようになる。

- ・満潮時でも現況の水路では、潮はあまり上がってこない。しかし、屈曲部より上流側をしゅんせつすると、入り込んで来ると考えられる。
- ・素掘りの池は雨がしばらく降らないと干上がる。
- ・粘土で改良した池は、その他の池、水路が干上がっている時でも水がある。
- ・水路と直結した池にはザリガニが多く、その他の水生動物は少ない。
- ・水辺の植生は、その場の表土を利用すること、

近くの水生植物を若干移植することによって、急速に回復した。

- ・池の造り方によって、そこに生息する生き物の種類に明らかな差が見られた。
- ・クヌギの苗は周辺の草に埋もれているようだが、枯れているわけでもなく、順調に育っていると思われる。多少、周辺の草刈りが必要かもしれない。
- ・素掘りでも、水生植物、水生動物の生息場所とすることは可能である。しかし、場所によってまったく湿地とならない場合もある。

## 2. 前提案案において変更を希望する事項

### ●大きな変更

- ①大きな池を3つに分け、造りの違う池とする
  - ・素掘りの浅い池、粘土による浅い池、粘土によるやや深い池

### ●小さな変更または追加

- ①小さな池を1つから2つとし、実験池を活かす。
- ②水路の堰の位置をずらし、水路の水が入り込む池を3つのうち1つとする。
- ③水路の堰より下流側はゴミ、堆積した泥などをしゅんせつし、満潮時に水が上がってくるようにする。

※この変更案へのご意見お寄せ下さい。



## 乗蓮寺下池の柵づくり

柵用の資材は、赤塚公園管理所の協力により、剪定された枝を用いて作りました。このような自然材は資源活用の意味で、緑と水にふさわしいテーマに思います（矢田 茂）。

## 台風の中の木挽き教室

赤塚公園の剪定枝をいただいて、子供達がノコギリの使い方を練習して、小枝を使って立派な花瓶を作りました（赤塚公園管理所共催）。

子供12人、大人8人、会員（先生と助手）10人が参加。



## みんなの会の運営ルール「DM同封の可否について」

会報第6号に同封されていた「有限会社 創造の森設立の趣旨と協力をお願い」のチラシに対して、会員から「会との関係も明記されておらず、DMまがいの単なる資金集めともとられかねない」との意見をいただきました。

6月の定例会では、この件について話し合い、まづDMの主である加々見さんが、第7号でお詫びの記事を書き、会報のルールについてのご意見を求めました。2人から反応があり、8月定例会でひとしきり議論しましたが、結論は出ませんでした。当面は定例会（緊急の場合は編集委員会）で話し合ってきたことになりました。主な意見は次のとおり。

- ①会の活動と関係があるなら会報で紹介する。詳細が未定でも連絡先があれば足りる。
- ②エコビジネスとボランティア活動は別のものだ。
- ③ボランティア団体や行政のニュースやチラシに限ってはどうか
- ④公共団体なら内容的にどうかと思うものでも認め、

民間は無条件にだめというのは納得できない。

- ⑤取捨選択は個人がすればよい。
- ⑥他の事業体が実施するものをお知らせするのは、会の目的ではない。
- ⑦金をとる（送料の一部を負担する）

「創造の森」は水と緑の会の有志も発起人になっていますが、会は設立には関与していません。大きな団体では、事業を受注するビジネス部門も持っているところもあり、最近、鶴見川流域協議会のなかから流域法人が生まれています。地域活動をしたことのない業者がまちづくりの仕事をするより、地元で活動しているノウハウを生かして、事業ができればどんなにいいでしょう。しかし、しかし・・・水と緑の会は出来て1年半。まだよちよち歩きの状態です。まずは会中心、会本位に考えたいです。みなさまはどうお考えですか。（坂本 郁子）

## 回想のトンボ達(1)

### 昭和30年代の板橋で

トンボを熱心に追い回した記憶は余り無い。多分、私の運動神経のにぶさのためである。

その頃、昭和30年代前半、のトンボの採り方はもっぱらトリモチであった。駄菓子屋へ空き缶をもって買いに行く。5円か10円の筈だ。ちょうど子供の1日分のこずかいであった。指先に水をつけ、細い竹の先端へ丹念にトリモチを伸ばしていく。細工物がようやく仕上がった。出来映えを気にした最初の経験だったかもしれない。いざ、出陣、だがギンヤンマは高く素早く飛ぶ。採れたものは、木の葉に自分の髪の毛ぐらいである。

その後もギンヤンマを捕まえた記憶が無い。竿を微妙に震わせ、トンボを追いかけ、走り回るのをあきらめた私は、静かに近寄り一瞬の勝負に賭ける、セミ採りに夢中になっていった。

そんな次第で、昆虫採集を始めてからも、トンボは余り採集していない。それでも目につく虫である、蝶採りの合間に見た彼らの思い出を書いてみよう。昭和61年と平成3年の板橋区昆虫類等実態調査報告書でも昭和50年代以前のトンボ相については記録がないようである。すこしは私の思い出も参考になるかもしれない。

### ギンヤンマ

昭和29年頃の石神井川、西堰橋のすぐ下が中州になっていた。護岸も無く、川床も深く掘られる前の話である。夕方になると子供達がトリモチ竿を手に中州の川原に集まってくる。その中には私の兄もいる。薄暗くなる頃、母に呼びに行かされる。橋の上から大声を出す、「晩ごはんだよー」と。

夕飯が済み、蚊帳を吊り、ギンヤンマを放す。羽についたトリモチは、母がミシン仕事に使っていたベンジンでおとしてある。蚊帳に止まったギンヤンマの瑠璃色が今も目に残る。狩野川台風の数年前、未だ木造の橋の時代だった。

### ハグロトンボ

これも昭和30年頃、今の茂呂山公園（その頃はハゲヤマと呼ばれていた）へ行く途中、石神井川を一本橋で渡って行く。幅の狭い鉄板が二枚、真ん中で繋ぎ合わさっていた、小さい子にはちょっとこわい橋であった。

ここの水辺をチラチラ飛ぶ、羽の黒いトンボがいた。オハグロトンボと、誰かに教えてもらった。上手の淀みに釣をしている人がいた。シジミもいると教えてもらった。今の栗原橋の辺りであろう。

それから数年後、赤塚ため池周辺ではあちこちにいた。何だオハグロか、と相手にもしなかった。今は板橋区内のどこにもいない。昭和40年代に滅びたようである。正確な記録も無い。

### チョウトンボ

徳丸ヶ原（今の高島平）の田んぼの上を高く飛んでいた。トンボらしかぬ広い羽、先端以外は青みがかった黒、名前の様に蝶に似ている。

良く飛ぶトンボで私の自宅（栄町）でも毎年夏の終わり頃、二、三匹は来ていた。高校生にもなると、さすが家の周りで網を振るのは気が引ける。目で追っていくが止まる素振りも見せず、どこかへ飛び去って行った。徳丸では結構止まっていたのだが。昭和40年代半ば頃までは確かに栄町まで飛んできていた。

昭和50年頃の中台、若木、平成2年の舟渡の荒川河川敷などの記録がある。赤塚の溜池が、水草の多い自然の状態になれば復活の可能性もあるかも知れない。  
(釣巻岳人)

## 活動のお知らせ

定例会は毎月第一木曜日(10月1日、11月5日)産文ホールB1「サンイチ」で(食事可)。

### 荒川自然回復団

#### ●笹目橋緑地秋の草刈り

実験池とその周辺の生き物調査、草花の観察と帰化植物などの草刈りを行います。中学生ボランティアの受け入れと河川行政への住民参加・広報ビデオの取材受け入れをします。いつも来ているメンバーが来られないようなので、あまり参加していない会員さん、来てください。

日時：9月26日(土)10時～15時

集合：笹目橋下流側手前の土手付近

(都営三田線西高島平駅から10分)

持ち物：弁当、飲み物、手帳、あればカメラ

参加費：無料

その他：小雨決行・雨具各自持参

問合せ：かがみ(5375-6404又は010-771-7530)

#### ●荒川クリーンエイド'98

今年も笹目橋周辺でクリーンエイドを行います。ゴミを調べながら拾います。粗大ゴミも集めます。水質調査もします。とん汁も用意します。天気が良ければ自然観察もしましょう。

日時：10月25日(日)10時～15時

集合：笹目橋下流側手前の土手付近

または西高島平駅改札口15分前に

持ち物：弁当、飲み物、筆記具、食器

参加費：200円

その他：雨天決行・雨具各自持参

問合せ：かがみ(5375-6404又は010-771-7530)

(fax変わりました。5944-7506です)

### 赤塚の森ボランティア

#### ●運営会議

日時：9月26日(土)午後1時～2時

場所：赤塚5丁目集会所(乗蓮寺そば)

連絡先：坂本 3579-2598または3952-6688

#### ●昔の赤塚の話を聞く会

赤塚の自然回復を目指すうえで大切な昔の自然について、城址の上にお住まいの沖田さんに来ていただいてお話を聞きます(飲み物・おつまみあり)。

運営会議の後に行います。

日時：9月26日(土)午後2時～4時

場所：赤塚5丁目集会所(乗蓮寺そば)

会費：500円

連絡先：坂本 3579-2598または3952-6688

#### ●ウォークラリー準備のための観察会

いよいよせまってきたウォークラリーに向けて、午前中はウォークラリーのルートの下見、午後はチェックポイント(遊びやクイズ)などの準備をします。本番については表紙をごらんください。

日時：9月27日(日)10時～15時

集合：美術館前(午後は赤塚5丁目集会所)

連絡先：小松 3937-8490

途中から参加の場合 040-930-8224

より多くの方々に会の活動を知っていただくために、インターネットホームページの開設準備を進めています。テスト版は10月1日公開予定です。お手伝いいただける方は [caa98300@odn.ne.jp](mailto:caa98300@odn.ne.jp) までご連絡ください。